



# 国際化の最前線から



## 全国の学校とつながり、 多文化共生をひろめたい！

明治大学国際日本学部 教授 山脇 啓造

明治大学の教員として、「多文化共生のまちづくり」をテーマとするゼミを担当している。3・4年生が対象で、合わせて約30人が学んでいる。ゼミの基本コンセプトは、実践志向、地域密着、社会連携である。

2013年度に研究室が中野キャンパスに移転してからは、中野の地域に貢献することを目指している。毎年7月に「中野区長と外国人留学生の懇談会」を開き、12月には中野区長他地域住民を招いた「なかの多文化共生フォーラム」を開いてきた。また、秋には、東京都主催の人権啓発イベントの一環として、プレゼン大会を他大学と連携して開いてきた。

2020年度、コロナ禍によって、対面でのゼミ活動はほぼ全面的にストップし、実践志向のゼミにとって最大のピンチであった。しかし、学生たちは、オンラインに活路を見出し、やさしい日本語を使った動画を制作し、上述の懇談会やフォーラム、プレゼン大会、そして中野区にやさしい日本語を広める「やさしい日本語市場」をオンラインで開催した。

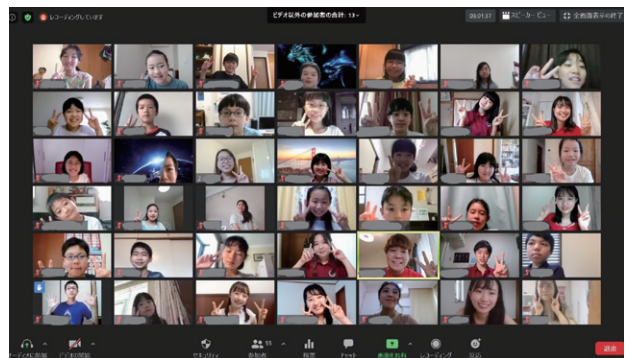
さらに、ゼミにとって新機軸の活動となったのが、小学校高学年を対象としたオンラインの多文化共生ワークショップだった。7月に実施したワークショップには、全国、そして中国やカナダから約30名の児童が参加した。保護者の一人から「年代や空間を越えて共に学び合う様子を拝見し、ポストコロナ期の新たな学びの姿を垣間見た」という感想をいただいた。ワークショップの様子は、日本経済新聞や朝日小学生新聞でも紹介された。11月には、横浜市内の小学校の授業の一環としても実施した。

2021年度は、小学生だけでなく、中学生や高校生を対象にしたワークショップも企画している。学生たちは多文化共生を学ぶ全国の学校とつながりたいという。私

はこれまで、行政関係者を中心に講演し、原稿を執筆することが多かったが、これからは、学生たちと二人三脚で、子ども向けの活動にも取り組んでいきたい。



ゼミ生と撮った集合写真（2021年4月）



小学校高学年向け多文化共生ワークショップ（2020年7月）

### プロフィール

山脇 啓造（やまわき けいぞう）  
明治大学国際日本学部教授（移民政策・多文化共生論）。総務省多文化共生の推進に関する研究会座長、東京都多文化共生推進委員会委員長。主著に『自治体職員のためのインターカルチュラル・シティ入門』（共著、欧州評議会、2021年）、『新多文化共生の学校づくりー横浜市の挑戦』（共編、明石書店、2019年）など。